

政務活動費 活動実績報告書

2025 年 2 月 7 日 森茂生

内容：有害鳥獣被害対策について調査研究

日時：2025 年 2 月 3 日～5 日

場所：愛媛県西予市

- ・西予市産業部農業水産課
- ・愛媛県南予地方局八幡浜支局
地域農業育成室西予農業指導班



有害鳥獣被害対策について

- ・有害鳥獣被害対策の取り組みについて
- ・ICT 捕獲罠による被害防止対策について
- ・大型捕獲罠、自動トリガー装置導入について

有害鳥獣から農作物を守る（西予市） ～高齢世代も活用できる新たな捕獲体制の構築～

大型檻の導入

- 市の補助金を活用し、大型檻を 4 基導入
- 導入当初は順調に捕獲できていたが、次第に捕獲しづらくなった。

自動トリガー装置の導入

- 県の働きかけにより、大型捕獲檻の 1 つに、赤外線センサーによる自動トリガー装置を取り付け、捕獲実証を開始
- 自動撮影カメラで捕獲の様子を撮影。多くの捕りこぼしが判明

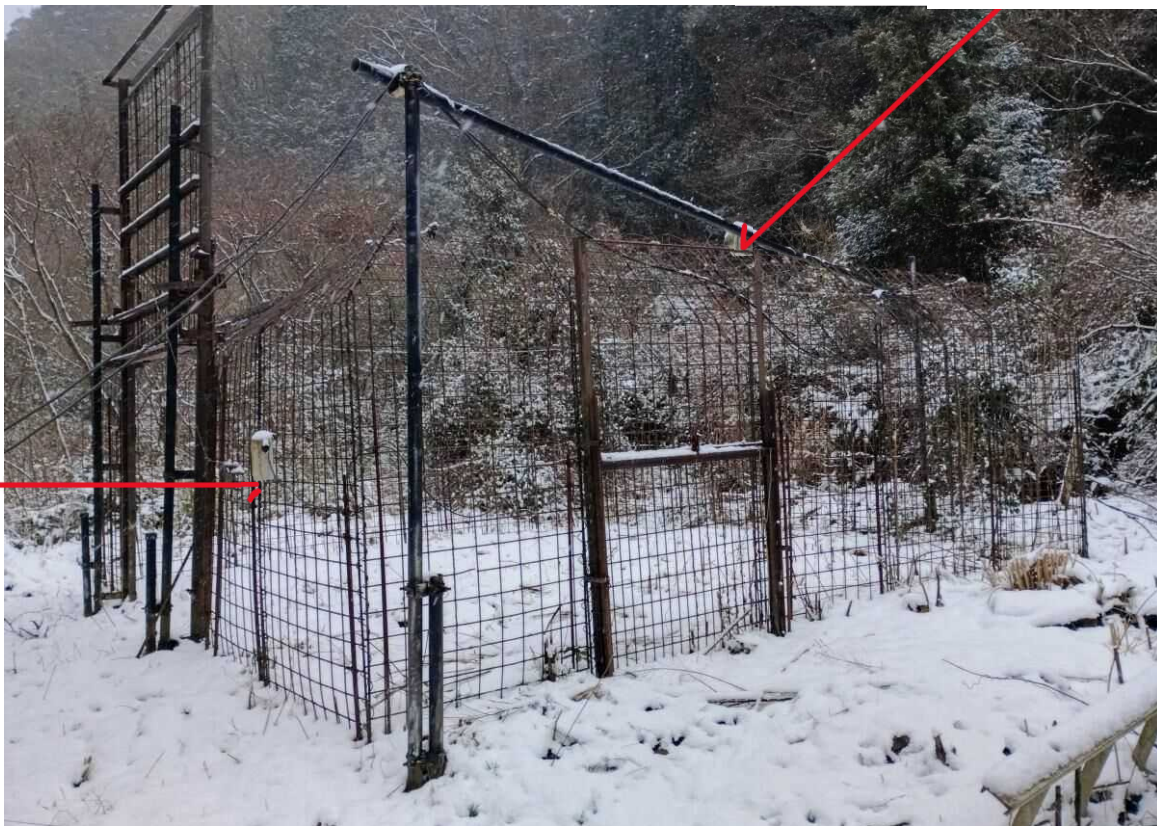


(大型捕獲ワナ・入口付近)



(中央の白い丸いのがカメラ)

(監視カメラ)



(起動装置・トリガー)

(大型捕獲ワナの全体・広さは 200 m²程度)

大型捕獲ワナと遠隔監視型装置を利用した有害獣捕獲技術の実証

- ◆ 西予市三瓶町内のミカン園付近に実証園を設置
- ◆ 管理は地元のミカン農家のグループ

1、

移動可能な大型捕獲ワナと遠隔監視装置を組み合わせることで、動画で群れの状況を随時確認する。捕獲に際し、アプリを電子末端に取り込んでおくことで自身の目で確認し、最適なタイミングで扉を落とすことができる。大型檻を使用することで群れごとにイノシシを捕獲することができる。

2、

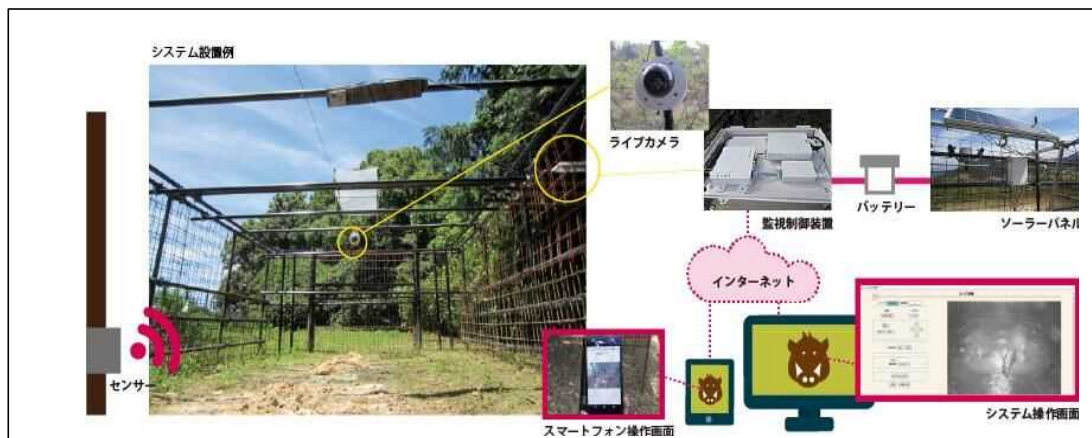
イノシシが檻の中に入るとセンサーが感知、メールで連絡が届き始め、画像からイノシシが接近していることが分かる。しかし、エサを食べにくるものの警戒し、入り口付近から逃げ出し檻の中にはなかなか入らない個体が多いので、檻付近を放任状態にする必要があるようだ。それでも、なかなか檻に入らないイノシシがいるので、根気よく餌付けする必要がある。

実証に要した費用

- ・ リース価格（通信費込み）月額 43,000 円 （捕獲ワナ設置費用は別）
- ・ 捕獲実績は年間で 15 頭

○県内の ICT 関係企業と連携し、ライブカメラを利用した捕獲 装置（スマートフォン等と連動した遠隔操作による捕獲 装置）の試作機を導入

○「ハンティン グマスター」として商品化（ホームページより）



ジカ被害が拡大している

平成 18 年頃から城川地区を中心に山間部で被害が目立ちはじめ、幼 齢木や樹皮の食害が発生するようになった。近年宇和地区の果樹園地（ぶどう）において食害が報告されるようになっており、生息域が確 実に拡大している。今後、侵入や生息数の増加による森林への被害は、さらに増加する ことが予想され、農作物被害の増加が懸念される。

ししの里せいよ（西予市獣肉処理加工施設）

公営としては愛媛県内で最も古い獣肉加工施設であった「ししの里せいよ」は、株式会社野村町地域振興センターが管轄することになり、2017年から駄場英之さんが支配人としてこの施設を任されています。この地域で数多くのいのししを捕ってきた猟師の経験をいかしつつ、流通にかなう精肉としての基準を満たすための「独自の解体処理技術」を確立しようとしています。「生きたまま」のいのししを受け入れています。

この処理施設のこだわりは、山で止め刺しし息絶えた後の屠体ではなく、まだ激しく動き回る「生体」での搬入を推奨している点です。

（イノシシの脂を使った化粧品）

国産イノシシの脂（ぼたん油）で作られた、自然で浸透力の高い保湿オイルで、脂の酸化を防ぐ天然ビタミンEをわずかに配合した以外は合成保存料や着色料、香料までも不使用。

- ・加工施設建設総額約 3,000 万円

近隣住民に配慮して、污水处理は浄化槽ではなく下水道に連結したため費用が高額になったようだ。

- ・指定管理料は年間 400 万円

西予市捕獲事業

イノシシ・市単価 10,000 円・国単価 9,000 円 合計 19,000 円（食肉用）

シカ・市単価 15,000 円・国単価 9,000 円 合計 24,000 円（食肉用）

※食用と非食肉用では単価が違う、成獣と幼獣でも違う

オリワナシステム

小型のハコワナが作動したとき、ワナ（子機）から親機を中継して捕獲者の携帯電話に知らせるシステムを導入。相当高額になる。

導入コスト

- ・ワナセンサー親機（1 基）15 万円
- ・ワナセンサー子機（7 基）28 万円
- ・ランニングコスト 年額 23,550 円

まとめ

添付写真のように寒波の影響で西予市は視察日の 4 日は 10 センチの積雪、四国でも西部地方は大陸からの寒波が関門海峡から吹くため積雪の多い地域とのこと。5 日は積雪で J R 予讃線は全便運休、1 日遅れば西予市に行くことが出来なかった。

全国の多くの自治体で鳥獣被害が深刻で、その対策には苦慮しているのが現状ではないかと思われる。西予市でも有害鳥獣被害が深刻で、被害を減らすため頭を悩ませているとのこと。

西予市でも鳥獣ごとに補助金が出るが、シカの場合はイノシシより補助金が高くなっている。八女市でも今後シカの被害が増大することが考えられる。（イノシシよりシカ被害が大きい）今のうちから対策を取る必要があると考えます。

また、西予市では、愛媛県の事業で「大型捕獲ワナ」により群れごと捕獲する実証実験を行っている。まだ実験段階で大きな実績は出ていないようですが、これほどまで有害鳥獣被害が深刻になっている現状では、八女市でも今までとは違う、何らかの対策を取る必要があると思われる。